

陶芸で作品をつくろう

ひとり1kg(豆腐2丁くらいの量)の粘土をコネコネし、表面に模様をつけたり、小さなパーツを組み合わせたりのしながら、彫刻作品を作ります。最後に釉薬で着色します。自由に立体作品をつくりましょう!1日目に粘土成形をし、2日目に着色予定です。講師による焼成後、参加者にお渡しします。



日時：①6月14日(土) 11時～16時(お昼休憩あり)、
6月28日(土) 10時～12時30分

②6月15日(日) 10時～15時(お昼休憩あり)、
6月28日(土) 14時～16時30分

※①、②それぞれ2日間の講座です。どちらかを選択してお申し込みください。開催日によって開始時間が異なりますのでご注意ください。

講師：根本裕子氏(陶芸家、SANZOKU CEO)

対象：小学校3年生～大人まで ①、②各回12名程度

会場：美術館実習室 材料費：4,000円

【申し込み締め切り：6月11日(水)※先着順】

県美にホームイン【福島アートアニュアル2025関連】

アートアニュアル出品作家の土田翔は自然などの対象と一体になってそのものの本質を全身で感じ取り、作品の制作につなげています。今回は、参加者の皆さんと一緒に美術館と一体になる体験をしましょう。 ※活動の様子は講師の映像作品の一部になる場合があります。



日時：6月22日(日) 10時～12時頃

講師：土田 翔氏(アーティスト)

対象：小学生から大人まで16名程度 ※小学校低学年以下は保護者同伴

会場：美術館実習室、館内、庭園など ※美術館内外を散策します。雨具、防暑のための帽子やタオル、飲み物などを持参してください。

参加費：無料

【申し込み締め切り：6月15日(日)※先着順】

開館スケジュール(○印=休館日)

6月

日	月	火	水	木	金	土
1	②	3	4	5	6	7
8	⑨	10	11	12	13	14
15	①⑥	17	18	19	20	21
22	②③	24	25	26	27	28
29	③④					

7月

日	月	火	水	木	金	土
		①	②	③	④	⑤
⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲
20	21	②②	23	24	25	26
27	②⑧	29	30	31		

利用案内

開館時間 9時30分 - 17時(最終入館は16時30分)

休館日 月曜日(祝祭日の場合は開館し、翌平日休館)／祝祭日の翌日／年末年始(12月28日～1月4日)／展示替にともなう臨時休館(7月1日～18日)

観覧料 一般・大学生360円(20名以上の団体は280円)、高校生以下無料 ※企画展観覧料は展示により異なります。〈企画展〉欄をご覧ください。※企画展料金で常設展もご覧いただけます。※こどもの日、県民の日(8/21)、敬老の日、文化の日は常設展が無料になります。 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は、常設展・企画展ともに無料です。(手帳をご提示ください)付き添いの方1名も無料となります。

交通案内

〈JR福島駅・東口より〉

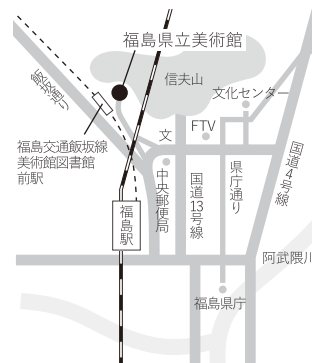
■電車 福島交通飯坂線「美術館図書館前駅」下車徒歩2分

■バス 9番乗場より福島交通バス／市内循環もりん2コース「県立美術館入口」下車徒歩3分

■タクシー 約5分

〈自家用車の場合〉

東北自動車道・福島飯坂ICより市街地方面へ約15分



福島県立美術館

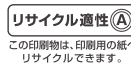
〒960-8003

福島市森合字西養山1番地

TEL 024-531-5511

FAX 024-531-0447

<https://art-museum.fcs.ed.jp>



MUSEUM NEWS

福島県立美術館

FUKUSHIMA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

開催中 企画展示

「福島アートアニュアル2025
site——representation 土田翔／鈴木悠哉」

2025年6月7日(土) - 29日(日)



土田翔《堆本遡源》2020年



鈴木悠哉《Reversible Garden》2024年

お申込み
お問合せ

県立美術館 教育普及係 TEL 024-531-5511

美術館総合受付、美術館ホームページからも
お申し込みいただけます。

開催中 企画展示

福島アートアニュアル2025 site——representation 土田翔／鈴木悠哉

2025年6月7日(土) - 29日(日)

「福島アートアニュアル」は福島県出身・ゆかりの若手作家を紹介するシリーズ企画です。第4回目となる今回は、土田翔(1997年生／福島市出身)と鈴木悠哉(1983年生／福島市出身)を取り上げます。

現代において、遠方に行くことは交通手段やメディアの発達によって昔よりもはるかに容易になりました。しかし、新型コロナウイルスの世界的流行を機に、遠く離れた場所との距離はより一層強く感じられるようになったかもしれません。絵や写真、映像を通して遠くの景観を目にすることはできますが、その場所の広がりや匂い、温度や手ざわりを十全に感じることはまだ難しいように思われます。

今回紹介する土田と鈴木はそれぞれの手法で場所や風景の表現を試みる作家です。土田は、日本画家・小松均の「直写」の芸術理論をフィールドワークによる制作手法に拡張し、身体と対象の同化を試みた独自の日本画を制作しています。一方の鈴木は、都市に見出した形態や構造を抽象化した何枚ものドローイングを起点に立体や映像を展開する手法で制作を行い、都市の景観を記号の集積として表現します。本展では異なるアプローチをとる二人の表現を通して、現代における場所を表象することの可能性を考えます。

休館日：毎週月曜日

観覧料：一般・大学生 400(300)円／高校生 200(100)円／小・中学生 100(50)円 ※()内は20名以上の団体料金



土田翔《移動式直写台》2022-25年



鈴木悠哉《Palimpsest (Collaged Wall)》2025年

〈関連イベント〉

オープニングトーク

展覧会の開幕にあわせ、出品作家によるギャラリートークを行います。

日時：6月7日(土) 10時-11時

会場：企画展示室(申込不要。観覧券をご購入の上、展示室入口にお集まりください。)

次回開催予告 企画展示

金曜ロードショーとジブリ展

2025年7月19日(土) - 9月28日(日)

「金曜ロードショー」はこれまで200回以上にわたってスタジオジブリ作品を放送してきました。その歴史はスタジオジブリが人気を確立し、作品の評価を不動のものとしていく足跡とともにあり、現在も続いています。

番組の放送が始まった1985年は、スタジオジブリが「スタジオ開き」をした年であり、日本テレビが特別番組で「風の谷のナウシカ」を初放送した年です。

本展ではそんな1985年を起点に、スタジオジブリ作品の公開年、そして「金曜ロードショー」で初放送された年がどんな時代だったのかを振り返りながら、映画の魅力に迫ります。



©Studio Ghibli



常設展示 福島県立美術館のコレクション

第Ⅰ期コレクション展

2025年3月22日(土) - 6月29日(日)

〈主な展示内容〉

- land-landscape 風景の表象：亜欧堂田善《新訂万国全図》、下村観山《寒空》、保田春彦《季節の残像》ほか
- 追悼・田口安男：《みもぎの手》《斜に》ほか
- 「福島の新世代」を振り返る：瀬戸正人《バンコク、ハノイ》、安藤榮作《約束のつばさ》ほか
- 新収蔵・福島の実験家たち①：横山尚人《ポプラ並木》、酒井昌之《雪の摺上川(茂庭)》ほか
- 海外作品の名作：ルノワール《帽子を被る女》、ルオー《超人》、ワイエス《そよ風》ほか
- 創作版画と斎藤清：斎藤清《化粧》、恩地孝四郎《母と子》、谷中安規《一族の長》ほか



クロード・モネ《ジヴェルニーの草原》1890年



関根正二《一本杉の風景》1918年頃

第Ⅱ期コレクション展

2025年7月19日(土) - 9月28日(日)

〈主な展示内容〉

- 県美の名品展：ワイエス《松ぼっくり男爵》、佐藤玄々《山兎》ほか
- 新収蔵・林康夫と現代陶芸：林康夫《浪江町の景》ほか



関根正二《自画像》1918年